



河内神社社殿修理落成記念(昭和28年5月18日)

⑬ 荒神社 (西田)

鎮座地 倉敷市西田二一〇
境内地 二〇〇、二m
祭神 稲倉魂神
祭神は稲倉魂神となつてゐるが、日本書紀では「倉稲魂命」と記されている。
倉稲魂命は、稲荷神社の祭神であるが、荒神



荒神社(西田)

社に祀られているのは、荒神信仰の広がりがかがわせる。また、西田は水田の多い地域なので、穀物の神を祀つたのかも知れない。
拜殿内にある「西田荒神祠廟の記」に次のように記されている。
「西田の三宝荒神社は郷内最古の神社で、稲倉魂神を祀り、創建は元禄年間(1688〜1704)とされる。
承応年間(1652〜1655)に木村九郎兵衛



茅の輪と木野山神社祭

が水田等の用地確保のため、村の有志や役人と共に海の埋め立てを企て、元禄十二年(1699)に見事二十四万六千坪の用地が完成し、人々にこの土地を解放し、荒神社を建立して夏と秋に祭典を行った。
以来西田の村人は、祭祀を厳修し、早魃や疫病があると荒神社の神に祈つた。するとその靈験は顕著に現れた。
このように西田は古くからあり、早島新田と

社殿改築に伴つて、境内の整備を行い、社殿前に憩える広場も作られた。
また、境内の周囲が未だ海であった頃に、波打ち際で海水に洗われて露出したとされる



境内の巨岩



改築後の厳島神社(弁才天)

巨岩が多数あり、往時を偲ぼせる風光明媚な場所として早島十景(町重文)の扁額に「弁才の浮見堂」として描かれている。
祭典は、春祭を五月第二日曜日、秋祭を十月第二日曜日に執り行つてゐる。

⑭ 河内神社 (早高)

鎮座地 倉敷市早高六六九
境内地 二二三、九m
祭神 市杵嶋姫命

宗像大社(宗像市田島)及び安芸の宮島の厳島神社の祭神である市杵嶋姫命を祀つてゐる。
境内を宮島のように島に似せるためか、周りは水路となつており神社が海に浮いてゐるかのように見える。また、昔はこの地から早島の弁才天まで船が通つていたので、航海安全を祈願して建立されたと伝えられてゐる。
昭和二十八年五月大規模な社殿の修理を行っている。昭和三十八年一月鶴崎神社の飛び地境内神社として合併された。
祭典は、早高中北組合の氏子により、旧暦四月六日に春祭、旧暦九月六日に秋祭を執行している。

市杵嶋姫命

古事記では市寸島比売命、日本書紀では市杵嶋姫命と表記する。
天照大御神と素盞鳴命の誓約の際に、素盞鳴命

の剣から生まれた宗像三女神(田心姫・湍津姫・市杵嶋姫)の一柱である。別名を狭依毘売命と称し、宗像大社に祀られてゐる。
神名の「イチキシマ」は「齋島」のことで、「イチキシマヒメ」は神に齋く島の女性(女神)という意味になる。厳島神社の祭神ともなつており、「イツクシマ」という社名も「イチキシマ」が転じたものとされている。



河内神社(早高)